



ニジマスをつかみ取り(荒井)



金魚すくい(荒井)



七夕交流(島立小3年生と福祉ひろば)



平成 29 年 9 月 1 日現在
世帯数 2,823 世帯
男 3,377 人
女 3,513 人
総人口 6,890 人

七夕★夏祭り

笹の葉・短冊と聞けば7月7日の七夕を連想する人も多いと思いますが、松本地方では1カ月遅れで行われる事が多いです。色紙に願事を書いて笹に吊るして飾るのが七夕の方法ですが、起源には多くの説があり古い日本の禊ぎ(みそぎ)行事で、乙女が着物を織りそれを棚にそなえ秋の豊作や人々のけがれを払う行事と伝えられたり、織女星(しよくじよせい)にあやかつて織りや裁縫が上達するようにお祈りする風習から生まれるとも言われています。

8月19日大庭地区では、恒例の行事となっている納涼祭が公民館周辺で行われ多くの参加者で賑わいました。午前中に町会役員などがテントの設営や食材を準備し、午後5時より開始しました。焼きそば、かき氷などを食べたり、ジュース、ビールなどを飲み思い思いに時間を楽しみました。

また、子供達は、普段なかなか出来ないスイカ割り大会に参加し、棒を持ち、手拭いで目隠しをし、10回まわって周りの声を頼りにスイカの場所を探し力いっぱい叩く姿がみられました。



七夕人形づくり(町区)



夏祭り(大庭)



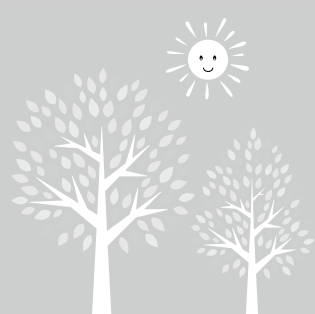
松本ほんぼん「御柱堀米」連(堀米)



手持ち花火(南栗)



お菓子釣り(南栗)



第1回 安心して生き生きと暮らせるまちづくり講座

去る8月18日に「安心して生き生きと暮らせるまちづくり講座」の第1回目が島立公民館にて開催されました。地区住民を中心に包括支援センターの職員や地区内の介護事業所の職員など、約60名の方が訪れました。



当日は在宅介護についてノンフィクションライターの中澤まゆみさんに自身の経験を交えながら講演いただきました。介護はいつでも誰にでも突然始まるものであり、人事とは思わずに自分のこととして捉えることなど、共助の大切さを学ぶ機会となりました。

本年度は「看取る・看取られる」をテーマに、あと2回講座の開催を予定しています。介護に関わった経験のあるなしに関わらず、親や自分の今後を見直すきっかけになれば良いと考えられています。

島立探訪「川」

テーマ

榑木川を探訪します。

榑木北川は本来、自然河川で梓川の本流が新村倭橋付近から東に流下して宮淵付近で奈良井川と合流していました。近世になって松本藩が現在の梓川筋に本流の流路を付け替えて榑木北川は梓川の支流となりました。

松本藩はこの川を木材の流送に使用し、用水の引き入れにも特権を与えられていました。江戸時代以降この川を上流で切りだされた榑木と呼ばれる屋根材や丸太を流し渡場から陸送していました。

江戸時代末期の松本の大火の時も、この榑木川によって用材の調達がスムーズにできて早い復興となりました。この材木は遠く江戸や日光東照宮まで運ばれ江戸の市街の6割の屋根材が松本産の榑木であったといわれています。

この榑木北川からも下新町、小柴などから島立北側の用水として分水していました。

榑木南川は、取水直後に分水し人工的に開削された用水路で、新村堰の最後が合流して榑木から栗林堰、高綱堰を流れ南栗まで島立の大部分へ



梓川と農業水利（第一期梓川水利改良事業完成直後）

用水を供給していました。古くは和田堰が7〜8世紀ごろ大井堰として開削され（時期については諸説あつて1100年ごろとの見方もある）その範囲は新村、和田、島立、島内で大井郷と言われ、島立、新村には条里制が施工されていました。和田堰より新村堰が分水されさらに榑木堰が分

水、余水は榑木へと流入し島立の中心部の用水でした。梓川を源流とする用水路は和田堰、立田堰、新村堰、温堰、横沢堰、庄野堰の六堰を上川、榑木堰、島堰、中萱堰、真鳥羽堰、高松堰の五堰を下川と称していました。下川の堰は取水が思うように出来ない時が度々あつたため松本藩の奉行所に融通方という役を置き、水時の配水調整に当たらせました。

なお和田村は幕府直轄領であったために、最上流取水の和田堰は融通方が調整できずに優越が維持され、下流の堰は渇水時には取水に苦勞し紛争も幾度となく起こりました。現在はずべての堰が合口により梓川頭首工から取水し計画的に配水されており

訪します。次回の島立探訪では堀川を探索します。

塩の道を歩き歴史を学ぶ

7月17日、「塩の道を学ぶ」現地講座が島立公民館の主催で開催されました。近年関心を集めている塩の道には鉄道以前の松本・糸魚川間交流の多くの史跡が残っており、この企画もタイムリグよく、真夏の暑さの中でしたが晴天にも恵まれ、約20名が参加、史跡や文化財を見学しました。

今回は全長約120kmのうち史跡も多く、比較的平坦で歩きやすい「千国越え」約7kmを歩きました。

バスで小谷村に着いた一行は9時半に榑池登山口の松沢薬師堂を出発し、まず路端の前山百体観音を見学



千国から三十三番観音を見学して雨中の郷土館へ向かいました。この辺りは小谷村の中心部で、史跡も沢山ありますが、観世音像など多くの石像が並ぶこの道は、当時は危険の多い激しい道であり、これらの石像は犠牲者の冥福を祈り、旅の安全を祈願するものにも他ならなかったのです。

そんなことを思い浮かべながら、2時過ぎに帰りのバスが待つ役場の下の小谷村郷土館に無事到着、この日の日程を終えました。

